

技術家庭科技術分野 評価計画

内容のまとめり・単元／観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ガイダンス 生活や社会における技術の役割	目標		
			社会や生活に生かされている技術に関心をもち、その役割を知る。 技術の見方・考え方を知る。 技術が生活や産業に及ぼしている影響に気づく。 技術の進歩による新たに発生した問題とその解決のために技術が果たす役割を知る。 日本で受け継がれてきた技術に関心を持つ。
	評価基準		
			入びとの「願い」を実現するための技術を見つめ、その役割を考えている。 技術の見方・考え方を知り、関心を持っている。 技術の向上により生活や産業に及ぼす影響を考えている。 環境保全の技術開発と、持続可能な社会の実現の必要性に関心を持っている。 日本の伝統的な技術が受け継がれ発展し、現代の生活や産業のものづくりに活用されていることに関心を持っている。
	評価方法		
			プリント記述 課題への取り組み 授業観察
A 材料と加工の技術	目標		
	木材や金属などの材料の特性を知る。 身の回りの製品や社会の中にある丈夫にするための工夫を知る。 等角図法および第三角法による正投影図法を身につける。 製図のルールを知る。 課題を解決する製作品の設計図・工程表を具体化する。 製作品の材料取りを行う。 切断作業を行う。 組立てにむけて必要な部品加工を行う。 製作品の組立てを行う。 制作品の仕上げと検査・点検、必要に応じた改善・修正を行う。	材料と加工の技術による問題解決の手順を調べ、問題解決の視点について考える。 生活の中から、身の回りの問題を見いだし、課題を設定する。 設定した課題に基づき、製作物を構想・試作する。 完成した製作品について発表し、相互評価に基づいて製作品や解決過程の修正・改善を考える。	身の回りの製品を観察し、使用されている材料やその加工方法や工夫されていることに興味を持つ。 習得した知識が日常生活にどのように役立つのかを知る。
	評価基準		
	木材や金属などの材料と使用方法を説明できる。 木材の特徴や加工法の科学的な原理・法則を説明できる。 金属やプラスチックの特徴や加工法の科学的な原理・法則を説明できる。 じょうぶな構造や形状・組み合わせについて科学的な原理・法則を説明できる。 図面を読んだり、書いたりすることができる。 製作品の構想図をかき、試作品を製作することができる。 製作品の製作に必要な図面や表をかきあらわすことができる。 安全・適切に材料取り、材料取り・切断・部品加工を行うことができる。 安全・適切に組立て・仕上げと検査・点検、必要に応じた改善・修正ができる。 これまでの学習と、材料と加工の技術が安全な生活や社会の実現に果たす役割や影響を踏まえ、材料と加工の技術の概念を説明できる。	生活の中で利用されている製品に込められた工夫を読み取り、材料と加工の技術の見方・考え方に気付くことができる。 製品の問題解決の手順から、問題解決の視点について、気付くことができる。 生活の中から材料と加工の技術に関わる問題を見いだし、整理・整頓に関わる課題を設定することができる。 課題の解決策となる製作品の大きさ・形状・構造など、使用場所や加工方法・使用できる材料などの制約条件に基づいて構想し、設計や計画を具体化できる。 適切に組立てができるよう手順を考えて組立てを行うことができる。 完成した製作品が設定した課題解決できるかを評価するとともに、設計や製作の過程に対する改善及び修正を考えることができる。 よりよい生活の実現を目指して、材料と加工の技術を評価し、適切な選択・管理・運用の在り方について意見をまとめることができる。	進んで材料と加工の技術に関わり、主体的に理解し、技能を身につけようとしている。 自分なりの新しい考え方や捉え方によって、解決策を構想しようとしている。 自らの問題解決とその過程を振り返り、よりよいものとなるよう他者と協働して粘り強く改善・修正しようとしている。 よりよい生活の実現に向けて、材料と加工の技術を工夫し創造していこうとしている。
	評価方法		
	プリント記述 授業観察 定期考査 作品・実習	プリント記述 課題 定期考査	プリント記述 課題への取り組み 授業観察

B	生物育成の技術	目標		
		安全・適切に栽培・検査し、必要に応じて適切に対応する。 生物育成の技術について知る。 これまでの学習活動を振り返り、生物育成の技術の見方・考え方について考える。	問題解決の手順を知り、生物育成の技術を用いて解決したい問題を見つけ、課題を設定する。 設定した課題に基づき、育成環境の調節方法を構想して、育成計画を具体化する。 設定した課題の解決状況を評価するため、作物の生育状況と、育成環境の調節、成長の度合いなどのデータを記録する。 収穫の様子（品質や収穫量など）と、解決過程で収集したデータとを整理して、収穫レポートにまとめながら、問題解決の過程と結果を振り返る。 生物育成の技術を評価し、技術の適切な活用について考える。	安全・適切に栽培・検査し、必要に応じて適切に対応する。 生物育成の技術を評価し、技術の適切な活用について考える。
		評価規準		
		作物、動物及び水産生物の成長、生態などについての科学的な原理・法則を説明できる。 生物の育成環境を調節する方法などの基礎的な技術の仕組みを説明できる。 育成計画に沿い、観察や検査の結果を踏まえ、安全・適切に育成環境の調節や、作物の管理・収穫ができる。 これまでの学習を踏まえ、生物育成の技術の役割や影響、最適化について説明できる。	生物育成の技術に込められた工夫を読み取り、生物育成の技術が最適化されてきたことに気付くことができる。 生物育成の技術が地域の自然環境に及ぼす影響に関わる問題を見だし課題を設定できる。 条件を踏まえて課題の解決策を構想し、育成計画表等に表すことができる。 育成計画に基づき、記録したデータと作物の生育状況とを比べながら、合理的な解決作業を決定できる。 自らの問題解決の工夫を、生物育成の技術の見方・考え方に照らして整理するとともに、課題の解決結果を記録したデータに基づいて評価する。 よりよい地域社会の構築を目指して、生物育成の技術を評価し、適切な選択、管理・運用の在り方について提言をまとめることができ	進んで生物育成の技術と関わり、主体的に理解し、技能を身に付けようとしている。 自分なりの新しい考え方や捉え方によって、解決策を構想しようとしている。 自らの問題解決とその過程を振り返り、よりよいものとなるよう改善・修正しようとしている。 よりよい地域社会の構築を目指して、生物育成の技術を進んで工夫し創造しようとしている。
		評価方法		
プリント記述 授業観察 定期考査 作品・実習	プリント記述 課題 定期考査	プリント記述 課題への取り組み 授業観察		
C	エネルギー変換の技術	目標		
		エネルギー資源の種類や、エネルギーが利用されるまでの流れを知る。 内燃機関と外燃機関の特徴を比較し、まとめる。 発電方法の長所・短所を比較し、安定して発電するための仕組みを知る。 送電の仕組みを知る。 エネルギーの変換効率の計算を行う。 省エネルギーの仕組みについて知る。 電圧の大きさや波形等、電気の物性に関する観察・比較を行う。 電気機器の構成と電流の流れを制御する仕組みを知り、電気回路を回路図を使って表す。 家庭で起こる電気の事故と原因について調べ、それらを防止するための仕組みや電気機器の定格について知る。 工具や回路計等を用いて、電気機器の保守点検を行う。 身近な製品に用いられている運動を変化させるための仕組みをモデル化し、観察・実験を通して動作を確かめる。 身近な製品に用いられている機械的に力や運動を保存し、利用する仕組みを調べる。 機械の手入れや点検の方法を知り、保守点検を行うとともに、機械の活用をすすめるための活動計画を構想する。	エネルギー変換の技術が生活や社会に果たしている役割について考える。 防災用品（例えば、グリップ式ライト）に込められたエネルギー変換の技術に関する工夫やしくみを調べる。 動力を伝えるための仕組みが用いられている身近な製品を探し、その理由を考える。 問題解決の手順を知る。 非常時に使用する製品の機能を考える。	エネルギー変換の技術で学習したことや身に付けた見方や考え方を振り返る。 エネルギー変換の技術を利用することで実現される持続可能な社会について考える。
		評価規準		
		自然界にあるエネルギー源から電気エネルギーへの変換方法と安定した電力供給の仕組みを説明できる。 算出した変換効率に基づき、エネルギー変換、効率及び損失の意味や省エネルギーの重要性を説明できる。 電源の種類とそれぞれの特徴を、電気の特性等の原理・法則に基づき説明することができる。 電気回路を回路図を使って表すことができ、電気回路の特性や電流の流れを制御する仕組みについて説明することができる。 電気機器の定格に基づき、安全に利用するための仕組みを説明することができる。 安全で適切な製作、実装、点検及び調整ができる。 エネルギー変換の技術を利用することで実現される持続可能な社会	防災用品に込められたエネルギー変換の技術に関する工夫を読み取り、エネルギー変換の技術の見方・考え方に気付くことができる。 発電システムは、エネルギーの変換効率だけでなく、稼働率やコスト、環境負荷等にも配慮して設計されていることに気付くことができる。 開発者が、製品等の目的に合わせて、機構の要素や構成を変更していることに気付くことができる。 非常時に使用する製品に必要な機能に気付くことができる。 設計に基づく解決作業を計画できる。 設計や製作の過程に対する改善を考えることができる。 持続可能な社会を実現するために、エネルギー変換の技術を評価し、適切な管理・運用の仕方や改良の方向性について考えることが	進んでエネルギー変換の技術と関わり、主体的に理解し、技能を身に付けようとしている。 非常時に使用する製品に必要な機能について考えようとしている。 自らの問題解決とその過程を振り返り、よりよいものとなるように改善・修正しようとしている。 持続可能な社会の実現に向けて、今あるエネルギー変換の技術を工夫して活用したり、新たなエネルギー変換の技術を創造したりしようとしている。
		評価方法		
プリント記述 授業観察 定期考査 作品・実習	プリント記述 課題 定期考査	プリント記述 課題への取り組み 授業観察		

D 情報の技術

目標		
コンピュータシステムの構成とソフトウェアの動きを知る。 コンピュータがもつ主な機能と主な装置の仕組みを知る。 計測・制御システムの基本的なしくみと各要素のはたらきを知る。 プログラムによる処理の自動化の方法を知る。 処理の流れや手順を表す方法を知る。 順次・処理・反復のプログラムの基本を確認し、変数や配列及びイ プログラムの制作、動作の確認及びデバッグを行う。 情報のデジタル化のしくみやデジタル情報と情報の量の関係を知 る。 デジタル化された情報の特徴や情報を圧縮する目的と基本的な仕組 みを知る。 情報の表現手段やコンテンツの特徴を知る。 情報通信ネットワークの構成や情報をやりとりするしくみを知る。 情報セキュリティの重要性と危険を防ぐための技術を知る。 情報モラルの必要性和情報を収集・発信するときに注意することを 知る。 情報社会で人権などの権利を尊重する必要性を考える。 知的財産を保護する必要性と利用方法を知る。 双方向性のあるコンテンツのプログラミングを利用した問題解決の 手順を知る。 計測・制御のプログラミングを利用した問題解決の手順を知る。 情報の技術での学習を振り返る。	情報の技術に関する製品やサービスに込められた工夫や仕組みを調 べる。 情報の技術が生活や社会で果たしている役割をまとめる。 情報の技術の学習を振り返り、ネットワークを利用したメッセー ジ交換における問題を見いだし、課題を設定する。 ○課題の解決策を、条件を踏まえて構想する ○プログラムの試作・試行を通じて設計を具体化し、制作工程表に まとめる。 ○制作工程表をもとに、安全・適切なプログラムを制作する。 ○動作の確認及びデバッグを行う。 完成したコンテンツを発表し、設定した評価項目に沿って相互評価 する。 ○社会で利用されているコンテンツと比較などし、目的が達成でき なかった原因や、さらに改善できる点をまとめる。 課題の解決策を、条件を踏まえて構想する ○プログラムの試行・試作を通じて設計を具体化し、制作工程表に まとめる。 情報の技術の評価し、適切な選択と管理・運用のあり方や、新たな 発想に基づく改良と応用について考える。 技術の学習をふり回り、技術の見方・考え方について確認する。 技術の工夫・創造とわたしたちの未来について考え、技術と主体的 にかかわる必要性について考える。	情報の技術での学習を振り返る。 情報の技術の見方・考え方について考える。 知的財産の望ましい活用を考える。 情報の技術の評価し、適切な選択と管理・運用のあり方や、新たな 発想に基づく改良と応用について考える。 技術の学習をふり回り、技術の見方・考え方について確認する。
評価規準		
情報のシステム化に関わる基礎的な仕組みを説明できる。 処理の自動化に関わる基礎的な技術の仕組みを説明できる。 処理の流れや手順を図で適切に表現でき、安全・適切なプログラ ムの制作、動作の確認及びデバッグ等ができる。 情報の表現、記録、計算についての科学的な原理・法則や情報のデ ジタル化に関わる基礎的な技術の仕組みを説明できる。 情報通信についての科学的な原理・法則と情報通信ネットワークの 構成に関する基本的な仕組みを説明できる。 情報セキュリティに関わる基礎的な仕組みを説明できる。 情報モラルの必要性和情報を発信する時の注意点について説明でき る。 知的財産を保護する必要性と利用方法を説明できる。 双方向性のあるコンテンツの仕組みを理解し、簡単なプログラムの 制作、動作の確認及びデバッグ等ができる。 生活や社会に果たす役割や影響について情報の技術の概念を説明で きる。	身の回りにある、情報の技術を利用した機器やサービスに込められ た工夫を読み取り、情報の技術の見方・考え方に気付くことができ る。 双方向性のあるコンテンツに関わる問題を見いだし、課題を設定で きる。 使用するメディアを複合する方法と効果的な利用方法など利用者に 配慮した解決策を構想し、情報処理の手順を具体化することができ る。 制作工程表に基づき、設計と実際の動作を確認しながら、合理的な 解決作業を考えることができる。 問題解決とその過程を振り返り、社会からの要求を踏まえ、プログ ラムがよりよいものとなるよう改善及び修正を考えることができ る。 計測・制御に関わる問題を見いだし、課題を設定できる。 入出力されるデータの流れをもとに解決策となる計測・制御システ ムを構想し、情報処理の手順を具体化することができる。 制作工程表に基づき、設計と実際の動作を確認しながら、合理的な 解決作業を考えることができる。 問題解決とその過程を振り返り、社会からの要求を踏まえ、プログ ラムがよりよいものとなるよう改善及び修正を考えることができ る。	進んで情報の技術と関わり、主体的に理解し、技能を身に付けよう としている。 情報社会において適正に活動しようとしている。 自分なりの新しい考え方や捉え方によって、解決策を構想しようと している。 知的財産を創造、保護、及び活用しようとしている。 自らの問題解決とその過程を振り返り、よりよいものとなるよう改 善・修正しようとしている。 自分なりの新しい考え方や捉え方によって、解決策を構想しようと している。 知的財産を創造、保護、及び活用しようとしている。 自らの問題解決とその過程を振り返り、よりよいものとなるよう改 善・修正しようとしている。 よりよい生活や社会の構築に向けて、情報の技術を工夫し創造しよ うとしている。
評価方法		
プリント記述 授業観察 定期考査 作品・実習	プリント記述 課題 定期考査	プリント記述 課題への取り組み 授業観察